

フィールドレポート
～プラナリアに会いに行こうツアー～

日時：5月5日(火)14:00-18:00

場所：日大キャンパス、牧場、石川丸山谷戸

天候：大雨(笑)

およそ10日前、どんな流れからだったのか、飲み会の席で「プラナリアを見たい」という会話から始まったこのツアー。GW中だしどーせ人も集まらないだろうと踏んで、とりあえず宣伝しまくってみました。しかし蓋を開けてみるとなんと参加者23名！！予想以上の人入りに主催者側がびっくりしていました。

今回は日本野生動物医学会学生部会の日大支部、麻布支部、そしてNUBSコケ研究会の合同企画としました。まずはフィールドに出る前に基礎知識の準備運動ということで、曇天のなか「青空教室」を開きました。



<青空教室>

①「プラナリアについて」 川本朋代(麻布大学獣医学科3年)

ここではプラナリアとはなんぞやと言うのを紙芝居風に紹介してもらいました。高校生物で習ったプラナリアの意外な真実の数々に絶えず驚きの声が上がっていました。例を挙げると、日本にはプラナリアは6属20種もいるそうです！！驚きです。

②「日大周辺の地理と今見れそうな生き物」 鈴木裕(日本大学獣医学科4年)

ここではこれから向かうプラナリア搜索地である日大周辺の地理、そして「谷戸」とはどのような環境なのか、また雨の日に生き物たちがどうしているかなどをちょこっと紹介しました。

③「コケについて」 早川とおる(日本大学応用生物科学科3年)

ここではこのツアーのもう一つの目玉であるコケ研に、コケとはそもそも何なのかなどとても面白いお話をしてもらいました。普段見落としがちなコケの魅力を発見することができました。

<プラナリアツアースタート>

一通り準備が終わった後で、いよいよプラナリアツアースタート！

といってもプラナリアがいるとされている石川丸山谷戸までは少し距離があります。そこでさっそく力を発揮したのがコケ研です。キャンパス内の木の陰、石畳の目地、図書館横の芝生、縁石…コケ研にかかれば普段の生活空間があつという間にフィールドと化します。プラナリアツアーは開始5秒でコケツアーへと変わってしまいました。



参加者全員が地面から目を話せなくなりコケを探します。コケ研は言います。「これであなともコケ研です」と(笑)



他にも少し視点を変えてみると、足元のはいろんな生き物がいることに気づきます。

カタツムリ、アワフキムシ、葉の裏で雨宿りをするカメムシなどなど。



コケ研のおかげで日大キャンパス、牧場をとても時間を掛けて歩くことが出来ました♪
さて、続いてこの旅の目的プラナリアを見つけるべく石川丸山谷戸へ向かいました。途中どんどん雨足が強くなってきて中止すべきか迷いました。なにより企画者ずぶ濡れで我先に心が折れてましたから(笑)参加者のコンディションも気になります。

しかし心配する必要は無かったようです。谷戸に着いた途端みんなが正体を現し始めました。隠し持っていたウェダーに着替えて川に飛び込む人、パンプスを履いたまま川に飛び込む人、誰もが我先にと川に入って行って石をひっくり返しプラナリアを探していました！



他にもアマガエル、ツチガエル、サワガニ、ホトケドジョウなどなど。

ここで企画者はひとつの事実に気づきました。みんなプラナリアっぽいものを見つけられるけど、「これがプラナリアだ！」と言い切れる人がどこにもいないことに…。大きな穴でした。結局ツアーはプラナリア‘様’の生物を見つけたということで終了しました。夢中でプラナリアを探していたみんなもさすがに凍えながら帰路についていました。

今回の企画で教訓になったのは「詳しい人と呼ぶこと」「天候には充分気をつけること」「参加者のポテンシャルを侮らないこと」でした。ポッと出の企画でしたが、それでもあの寒さを差し引けば、周りの皆さんの協力のおかげで楽しく暖かい観察会が作ることができた

と思います。どうもありがとうございました！

<参加者感想>

- 生まれて 23 年目に初めてヤゴというものを生で目にし、さわれました。コケにも興味をもて、ついつい家路の途中で探してしまいました…。もう僕はコケ研かもしれません(笑)今回のツアーを通して色々な世界が見れたので、普段自分はいかに狭い視野と世界の中で生きていたかを痛感しました。正直もっとはしゃぎたかったのですが、今年 24 にもなるおじさんがはしゃいぐのはちょっと恥ずかしいです。主催者の方々には貴重な体験をさせていただき、本当に感謝しております。また機会がありましたらよろしくをお願いします。
- サワガニブルータイプいっぱい、ホトケドジョウも取れて、ヤマトヌマエビも！そのほかにも沢山生き物が見れました～移動の時はちょっと広がりすぎたかなと車など気をつけましょうって所ですかね次はホタル観察ですかね？(☆o☆)
- 僕はプラナリアと言うものを生物の資料集でしか見てことがなかったので「是非実物を見てみたい！」という想いから今回参加しました。
残念ながら肉眼での確認はなりませんでしたが、大雨にもかかわらず皆さんの熱い想いがびしびしと伝わり、また、コケへの造詣も以前より深くなったことは大いに貴重なものでした。
次回こういった探索ツアーに参加する機会があれば、「長靴」と「レインコート」で望みたいと思います！